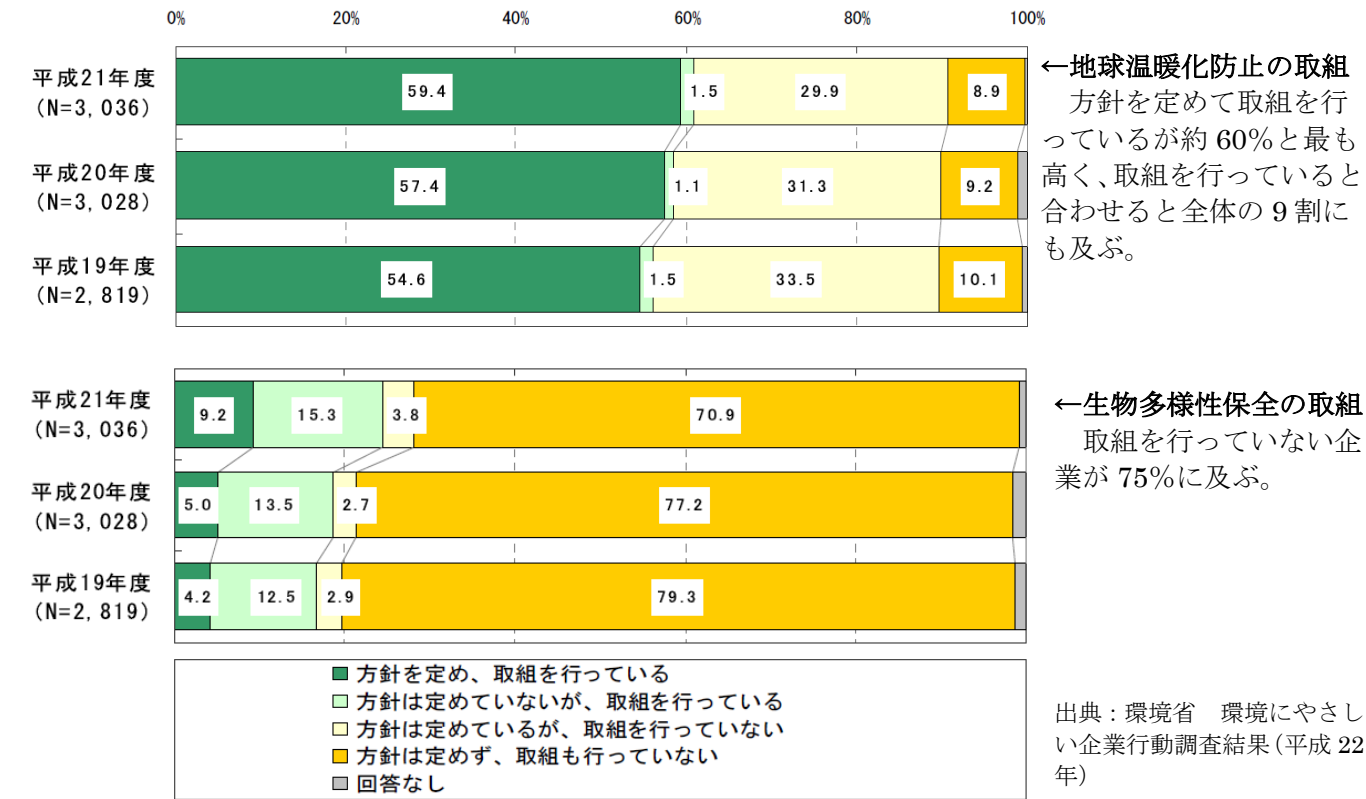


## 企業活動と生物多様性との関連

- 経済活動は生物多様性から多くの恵みを受けて成り立ち、同時に生物多様性へ影響を与えており、事業者には生物多様性の保全に取り組むことが期待される。「地球温暖化防止対策」と比較すると、その取組は微増しているものの低水準にとどまっている (①)。
- 特に、大企業と比較すると、中小企業では取組への意識が低い (②)。
- 森林・水産認証など生物多様性に配慮した林業、漁業、商品開発などが進んでいる (③)。
- 消費者は環境への意識は高いが、必ずしも具体的な購買行動を行っていない (④)。

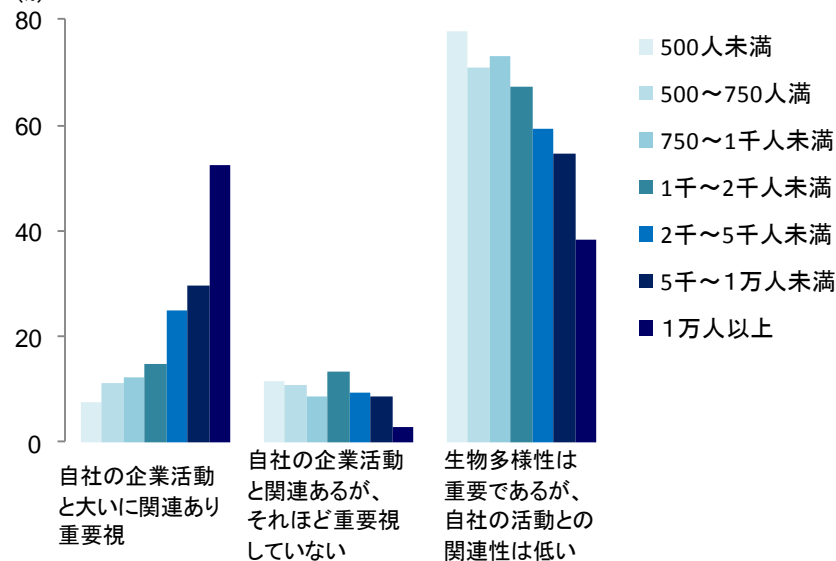
### ①企業の「地球温暖化対策の取組」と「生物多様性保全への取組」の実態比較



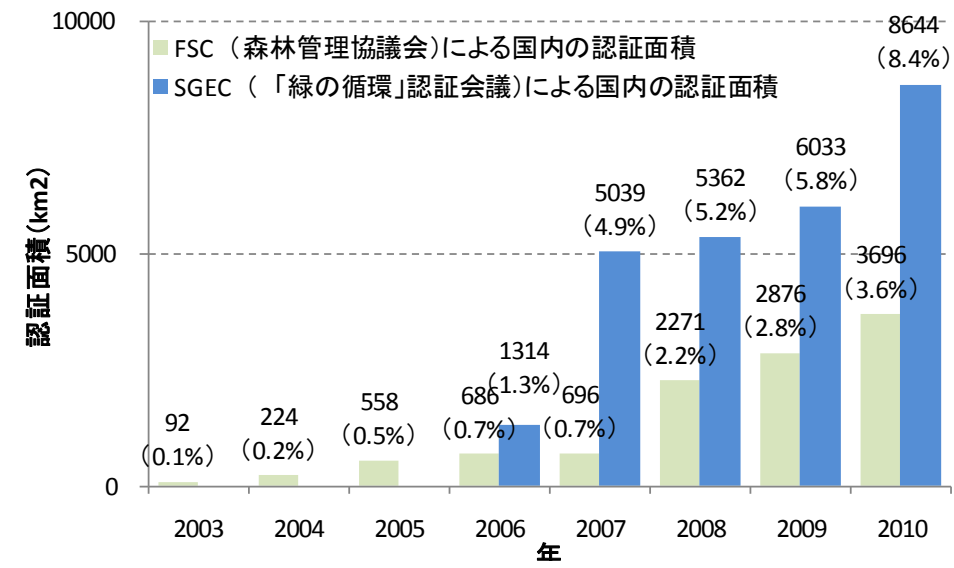
### ②企業規模と生物多様性の保全への取組意識

「貴組織では、生物多様性の保全への取組と企業活動のあり方についてどう思うか」との質問に対する回答。大企業では生物多様性との関連性を重視しているところが多いが、中小企業では重視していない、あるいは自社との関連性は低いと認識している場合が多い。

出典：環境省 環境にやさしい企業行動調査結果(平成22年)

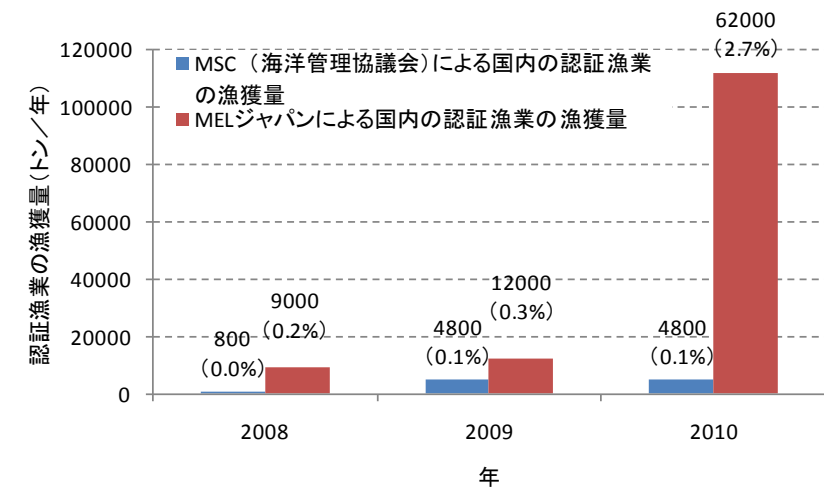


### ③森林認証・水産認証の普及



消費者に対して持続可能な林業や漁業による産品であることを表示する認証(エコラベル)の取組が広がっている。

←主要な森林認証団体であるFSCとSGECの認証を受けた森林の面積は、この10年弱で大幅に増加した。わが国の人工林面積の1割程度に相当する(2010年)。



←主要な水産認証団体であるMSCとMELジャパンの認証を受けた漁業は増加しているが、これら漁業の漁獲量は、わが国の漁業生産量の数パーセント程度である。

### ④消費者の行動

環境に配慮した商品の市場の成長が期待されている。消費者調査によると、環境や自然への肯定的な意識はある(約8割)が、その意識は具体的な購買行動には必ずしも結び付いていないようである(約2~4割)。

出典：JETRO ジャパニーズマーケットリポート No.78 環境と健康に配慮した消費者及び商品・サービス市場(平成18年)

